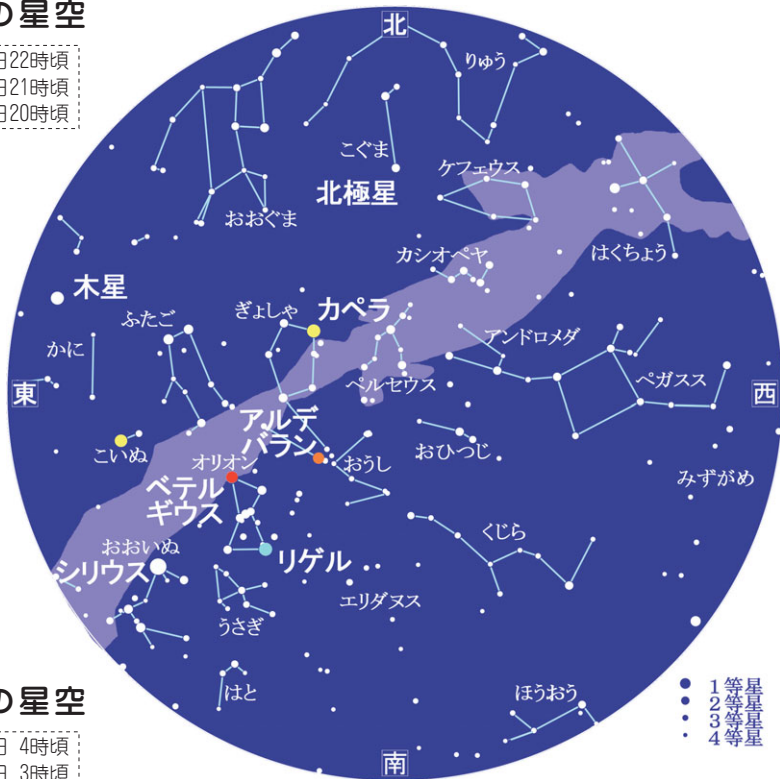




★星空ガイド 12月16日～1月15日

よいの星空

12月16日22時頃
1月 1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

12月16日 4時頃
1月 1日 3時頃
15日 2時頃



- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星

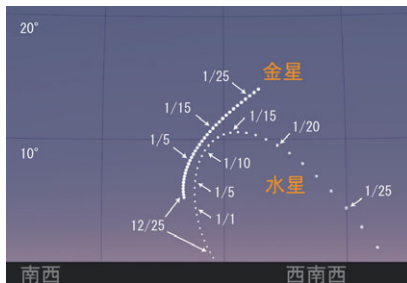
[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
12	16	火	6:57	16:48	0:51	12:46	23.6
	21	日	7:00	16:50	5:44	16:17	28.6
	26	金	7:03	16:53	10:02	21:41	4.1
1	1	木	7:04	16:57	14:00	2:59	10.1
	6	火	7:05	17:01	18:13	7:20	15.1
	11	日	7:05	17:06	22:41	10:15	20.1
	15	木	7:04	17:09	1:27	12:31	24.1

※惑星は2015年1月1日の位置です。

<水星が東方最大離角>

11月に明け方の空に見えていた水星が、今度は夕方の空に見えるようになってきました。1月15日、水星が東方最大離角の位置に来ます。この日の前後は、水星が太陽から東側に最も離れますが、それでも水星の地平線からの高さは、日の入り30分後で10度程度です。この時間帯は辺りがまだ薄明るく、しかも時間が経つにつれて、どんどん水星の高さは低くなっていくので、見つけるのはかなり大変です。しかし今回は、明るい金星がそばに見えていますので、これを目印にすることができます。特に1月11日には、水星と金星が角度にして0.65度の距離まで近づきますので、2つの惑星がならんでいる様子を比較的簡単に見つけることができるでしょう。



夕方の水星と金星の見え方(日の入30分後)
(ステラナビゲーターにて作成)

<しぶんぎ座流星群>

ペルセウス座流星群、ふたご座流星群と並んで3大流星群の1つに数えられるしぶんぎ座流星群が、1月4日の明け方に極大になります。この流星群は出現数は多いのですが、継続時間が短く特定の数時間にたくさん流れる、という特徴があります。今年は極大の時刻が4日の朝と予想されており、放射点が高くなる夜半から夜明けにかけて、流れ星の数も増えていきます。大阪市内でもお正月で街灯りが普段より少なく、1時間に数個程度は見るができるでしょう。ただし、今年は満月直前の明るい月が一晩中見えているため、条件としてはよくありません。

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
12	17	水	明け方に月とスピカがならぶ エウロパがイオをかくす
	19	金	月と土星がならぶ
	22	月	●新月(11時)/冬至
	23	火	こぐま座流星群極大のころ
	24	水	エウロパがイオをかくす
	25	木	月が最近(364797km) 月と火星がならぶ
	29	月	●上弦(4時)/月と天王星がならぶ ガニメデがイオをかくす

江越 航(科学館学芸員)

月	日	曜	主な天文現象など
1	2	金	月とアルデバランが接近
	4	日	しぶんぎ座流星群極大(9時) 地球が近日点通過(1.4709億km)
	5	月	○満月(14時)
	6	火	小寒
	8	木	月と木星・レグルスがならぶ エウロパの影にガニメデが入る
	10	土	月が最遠(405408km)
	11	日	水星と金星が接近
	13	火	●下弦(19時)
	14	水	明け方に月とスピカがならぶ
	15	木	水星が東方最大離角 イオの影にカリストが入る